

持病による熱中症リスクの増加

環境・健康

糖尿病、利尿剤を服用している高血圧症・心臓病などでは発汗用の水分が不足しやすく、利尿剤の服用では尿とともに塩分（ナトリウム）が排泄されるため塩分が不足しやすく、また、慢性腎不全でも水分・塩分が不足しやすいことに注意が必要です。

血管を拡張する内服薬を服用している高血圧症・心臓病では一過性の脳虚血を起こしやすく、全身的な皮膚疾患では発汗を阻害したり、自律神経機能に影響がある薬剤を服用している精神・神経疾患では発汗機能や体温調節機能が阻害されやすくなることに注意が必要です。

持病による熱中症リスクの増加を下記表に示しました。

持病による熱中症リスクの増加

持 病		熱中症リスクの増加
糖尿病	<ul style="list-style-type: none"> ・血糖値が高い血液を薄めるために水分が必要となる ・糖と一緒に水分も尿に出てしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・体温調節のための発汗用の水分が不足しやすい
高血圧症 心臓病	<ul style="list-style-type: none"> ・降圧利尿剤を服用していることが多く、尿とともに塩分（ナトリウム）も一緒に排泄される (利尿剤：尿を多く出す作用がある) ・血管を広げる内服薬を服用していることがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・体温調節のための発汗用の水分が不足しやすく、塩分も不足しやすい ・水分や塩分の補給に制限があることが多い ・軽度の発汗でも一過性の脳虚血（立ちくらみ等）を起こしやすくなる
慢性腎不全	<ul style="list-style-type: none"> ・水分、塩分コントロール不全により、電解質の代謝が阻害され、水分、塩分不足になり易い 	<ul style="list-style-type: none"> ・体温調節のための発汗用の水分が不足しやすく、塩分も不足しやすい
皮膚疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・全身的な皮膚疾患があると発汗がうまくいかない 	<ul style="list-style-type: none"> ・体温調節のための発汗がうまくいかない
精神・神経疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・自律神経機能に影響がある薬剤の服用（抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・発汗機能や体温調節機能が阻害されることがある

kes サポート

課 題	kes サポート
温熱環境の調査	作業環境測定
衛生診断、リスクアセスメント	作業環境測定結果等に基づく衛生診断、リスクアセスメントの実施
衛生意識の向上	労働衛生教育